

## ○ 委員長報告

2月定例本会議で報告されたスポーツ文教警察委員長報告は、以下のとおりです。

平成31年2月定例会

### スポーツ文教警察委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業についてであります。

このことについて一部の委員から、本事業の現在の取組状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、毎年3,000名程度の申し込みに対し、小学4年生から中学2年生までの5学年で40名程度を選考しており、何十倍もの競争率となる中、非常に身体能力の高い子どもたちを選考することができている。

本事業では、身体能力、メンタル、食事などのプログラムを年間約30回実施し、競技団体とも連携しながら適性競技を見つけていくこととしており、今年度は、40名のジュニアアスリートが、60件の全国レベルの大会に出場し、ライフル射撃競技では、短期間の育成で才能を伸ばした選手が、全国大会中学の部で優勝するほか、ジュニアアスリートの修了生が、7人制の女子ラグビーで次世代の日本代表候補に選ばれるなど、取組みの成果が順調に上がっている旨の答弁がありました。

第2点は、特別支援学校高等部生徒の就労についてであります。

このことについて一部の委員から、特別支援学校高等部の就職や就労についての取組状況及び卒業生の就職率や進路はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、キャリア教育・就労支援充実事業の中で、企業や労働・福祉関係機関等と連携し、学校独自の進路指導や技能検定を行っているほか、東・中・南予の特別支援学校に就労支援コーディネーターを配置し、就労先や現場実習先の開拓に加え、就労している卒業生の支援も行っている。

卒業生の就職率は、昨年度は35.8%であるが、希望した生徒全員が就職できており、今年度は現時点で36.6%となっている。

また、健康面の状況から在宅にならざるを得ないなどの生徒が数名いるもの

の、就職以外の進路も含め卒業生の 100%近くが自分の希望する進路に進んでいる旨の答弁がありました。

第3点は、歩行者の交通死亡事故抑止対策についてであります。

このことについて一部の委員から、事故の抑止対策と「横断歩道止まろうキャンペーン」の取組状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、昨年の県内における交通事故死者 59 人中、歩行者と車の事故による死者は 28 人であり、そのうち夜間に 21 人が死亡していることから、来年度は事故多発路線の横断歩道にセンサー付きスポットライトを設置してドライバーの発見遅れによる事故を防止することとしている。

また、本キャンペーンでは、バスやトラック、タクシーなどの事業者や関係団体が中心となり、横断歩道での確実な減速と一時停止等を定着させ、ドライバーの歩行者保護意識の向上に取り組むなど、今後も関係団体等と連携して、交通事故の更なる減少に努めていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・愛顔感動ものがたり発信事業
- ・えひめ名建築発掘発信事業
- ・障がい者雇用の促進
- ・児童虐待、いじめ問題に対する社会全体での取組み
- ・県警の児童虐待事案への対応
- ・繁華街の浄化対策

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。